



衣川 賢介

## 『梵鐘の思い出』

まだ小学生の低学年だったころ、ガキ大将が『今夜11時半に松林寺（しょうりんじ）の前に集合！』こんなことを言いました、除夜の鐘を撞くためです。当時、お寺の門は開放されていません。10数人の子どもが門前でワイワイガヤガヤ騒いでいます。お坊さんが『何ですか？こんな時間に』ガキ大将が『僕たちも鐘をつかせてください』こんな会話で、初めての体験が始まりました。大きい子から順に鐘を打ち鳴らします。先輩のやり方をじっと見ているうちに私の順番。まるでヒモにぶら下がるようにして撞木を引き『ゴーン』と大きな音が出たときは寒さも忘れ、大喜びしました。それ以来、毎年除夜の鐘を撞きに行きましたが、お寺も心得たもので開門し焚き火をしてくれるようになりました。

最近になって梵鐘を詳しく知りたいと思い調べ始めました。そうするとこの松林寺の梵鐘は昭和18年頃、第二次世界大戦の影響で金属類回収令が出され供出されてしまい、子どもの頃の鐘は戦後作られた物であることが判りました。

くさりを作る仕事について間もなくのころです。お寺の世話役さんが数名、錆びた鉄の棒を2本持って来社、親父（社長）と大声で話しています。内容は梵鐘の吊り金具が錆びて危険なので、新しい物を作って欲しいとの事。親父に呼びつけられ、この金具の寸法を測りました。一つは天井からぶら下げる三角おむすびのような吊り金具。もう一つは弓を張ったような、長いmの形で狭い竜頭の中を通り上のおむすびと連結する。結局、うちで作ることになりました。当時はまだ鍛造経験のある職人さんがいて、鍛造用の炉など設備もあり、特注の金具でも比較的簡単にできたのです。40年以上経っていますが、現在も鐘楼で梵鐘をぶら下げています。

梵鐘を見たいと思い久しぶりに松林寺を訪問しました。境内は子どものころと同じでしたが、案内板が最近立てられたようです。そこには以下の説明書きがありました。

これから一年間ほど梵鐘と鋳物師のシリーズです。

### 松林寺 山号 一吼山（いっくさん）

真宗大谷派。創立年時は不明。

中島鷲沢の地で天台宗の寺として建立され、後に京都の人、望月三郎右衛門氏友がこの地に来て出家し、積宗栄と名のり、天台宗を真宗に改める。

万治年間（1658～1661）に火災により中島の地の堂宇を焼失し、寛文13年（1673年）寺を現在の阿成の地に移す。

寛政11年（1799年）本堂を改築し、現在に至る。

平成元年（1989年）に本堂の大屋根が修復されている。

平成25年 1月 高浜地区夢プラン実行委員会



松林寺



鐘楼



吊り金具 当社製造

吊り金具

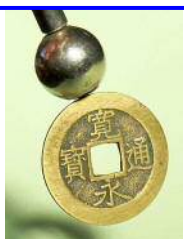
竜頭

笠形

来て！見て！ふれて！

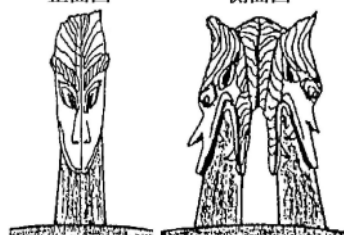
ふしぎ体感

『鉄のふしぎ博物館』



正面図

側面図



竜頭三山形

むらの鍛冶屋®



何でもお気軽にお尋ねください！！